

飼料業界におけるリードタイムの確保に向けた取組の方向性について

令和3年3月22日
農林水産省生産局畜産部飼料課

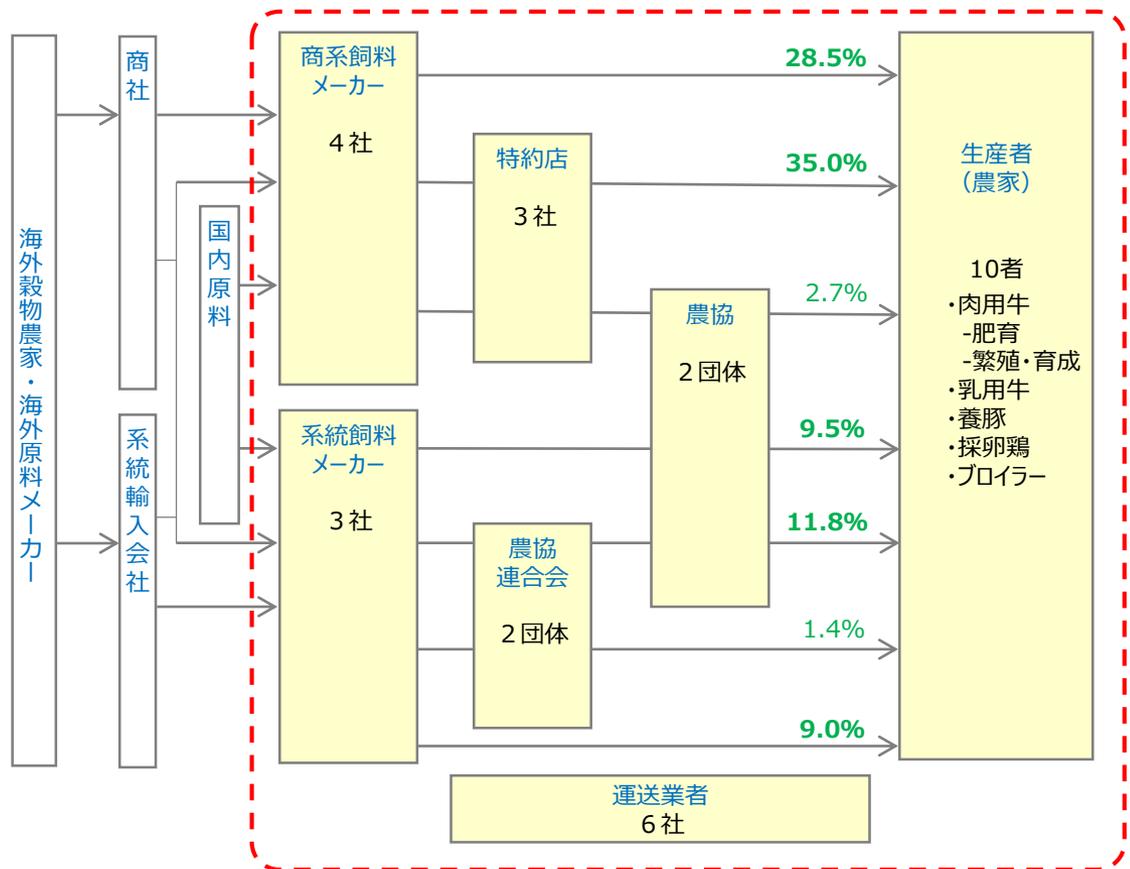
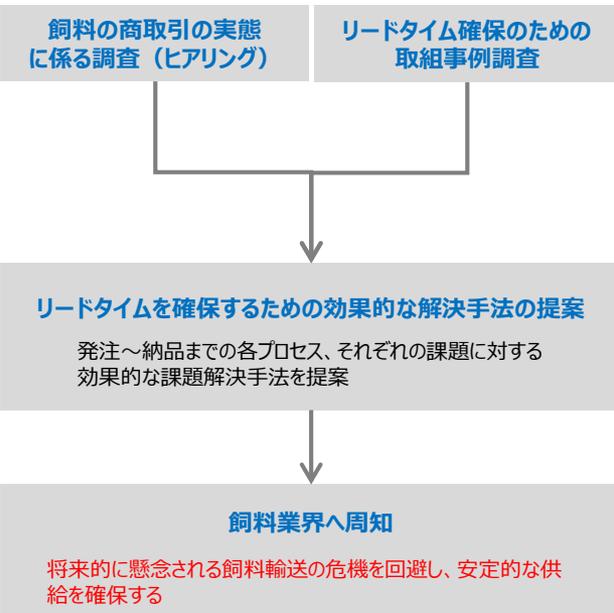
1. 令和2年度飼料業界におけるリードタイムの確保に係る 調査・分析委託事業の結果概要

I 調査概要

- 飼料の商取引の実態に係る調査（ヒアリング調査）及び他分野におけるリードタイム(発注から納品までに要する期間)確保の成功事例の調査を実施することにより、飼料業界におけるリードタイムを確保するための効果的な手法等を明らかにすることを目的とするものである。
- **ヒアリング調査**については、飼料メーカー7社（商系4社、系統3社）、特約店3社、農協連合会2団体、農協2団体、運送業者6社、生産者10者の計30者を対象に実施。

ヒアリング調査対象先

調査の全体像



(1) 他貨物輸送と比較した際の飼料輸送の優劣点

- 飼料輸送は、附帯作業の特殊性、帰り荷の確保が難しいこと等によりドライバーの確保がより困難で収益性が低い傾向にあると考えられる。
- 生産者を中心に運送業界が逼迫していることに対する認識が薄い。（なんとなく大変そうだが、経営的に苦しいのは生産者も同じ、という認識レベル）

他貨物輸送と比較した際の飼料輸送の優劣点	
優位性	<ul style="list-style-type: none">・ 仕事量が安定的（他貨物輸送と比較すると、景気変動の波が比較的少ない）
劣位性	<ul style="list-style-type: none">・ （バルク車配送は）大型免許が必須な上、特殊車両の操作が求められる・ 各種附帯作業が伴う（危険な高所作業、在庫の確認、発注業務の代行、消毒作業など）・ 帰り便の確保が難しい、農場が点在、A 飼料・B 飼料の混載が難しいなど、積載率が低い・ 特殊車両が高額（車両導入コスト） <p>⇒ 他の貨物輸送と比べて、ドライバーの確保がより困難で収益性が低い傾向にあると考えられる</p>

<運送業者からみた飼料輸送における運送会社と取引先との関係性>

- ・ 運送業者にとって、飼料メーカー、飼料販売業者及び生産者は顧客であり、立場として弱い。
- ・ 運送業者によっては、仕事を受注するために附帯業務を行うことをサービスとして自ら提案してきたところもあり、飼料メーカー、飼料販売業者及び生産者は、運送業者が各種附帯業務を行うのは当たり前との認識。
- ・ 生産者を中心に運送業界が逼迫していることに対する認識が薄い（なんとなく大変そうという認識レベル）が、経営的に苦しいのは生産者も同様であり、運送業者の要望を聞く余裕がない。

(2) 飼料輸送の市場特性と配送に与える影響

		特性	状況
地域	工場から近い	<ul style="list-style-type: none"> 飼料輸送を担う運送業者の参入が比較的多い 	<ul style="list-style-type: none"> 飼料輸送上の課題は少ない
	工場から遠い	<ul style="list-style-type: none"> 飼料輸送を担う運送業者の参入が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 運送業者の手配が困難 配送コストが高く生産者負担が大
畜種	牛(肥育・繁殖)	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖農家の約60%が飼養頭数10頭未満の小規模生産者であり、紙袋での配送が中心 	<ul style="list-style-type: none"> 手作業による荷積み・荷下ろし
	豚・鶏	<ul style="list-style-type: none"> 養豚向け飼料は日持ちがしない(多くの在庫を持ってない) 養鶏向けは出荷間際になると飼料の発注量が急増するが、天候等によって餌の食いつきに増減が発生するため、タンク容量の小さい生産者の発注量は微妙な調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> タンク容量の小さな生産者向けには、配送件数・頻度が多くなり、リードタイムの確保が困難
生産者規模	大規模	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ数も多く、飼料発注、飼料在庫管理も計画的に行われている 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に一定量を配送
	中小規模	<ul style="list-style-type: none"> ひとりあたりの業務負担が大きく、一部の生産者は飼料発注や在庫管理がおざなり 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の一部生産者による直前発注・変更によって製造・配車スケジュールの変更が発生



生産者の戸数や飼養頭数などの飼料需要の大きさと物流を担う運送業者の数等の輸送力とのバランスが崩れた地域（例えば秋田県や神奈川県など）において、これまでのように運送が行えなくなっている

(3) 安定した飼料輸送を実現している事例(A県におけるB社の乳牛用飼料の事例)

- 農場が飼料工場から遠く、運送業者が少ない地域など、飼料輸送の逼迫度が大きい地域においても、以下のような取組みを行うことで、安定した飼料輸送を実現させている。

STEP 1

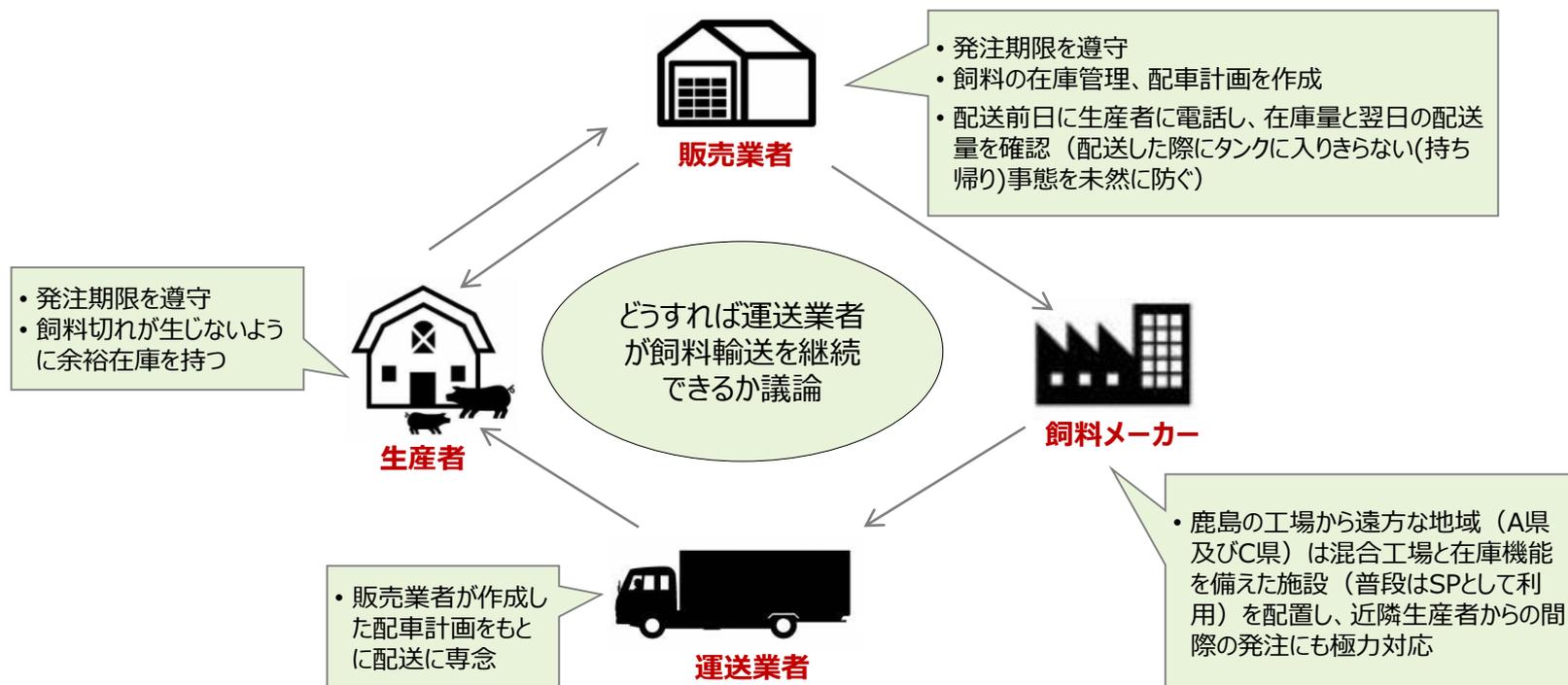
- ・ 従来どおりの飼料輸送が行えなくなる事態を関係者（販売業者・飼料メーカー・生産者）が認識

STEP 2

- ・ 各関係者がどのような取組を行えば、運送業者が飼料輸送を継続できるかを議論

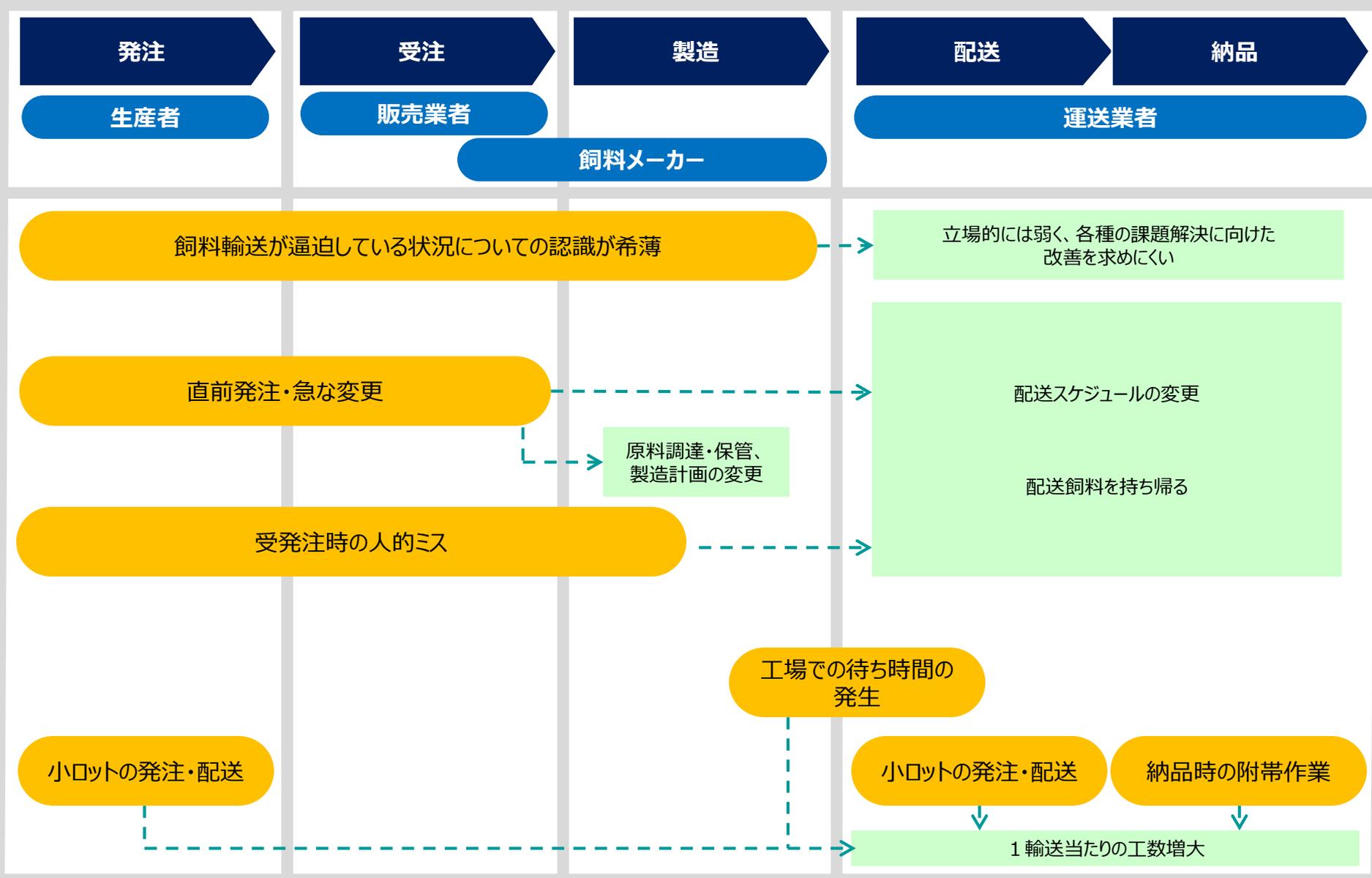
STEP 3

- ・ 各関係者が安定した飼料輸送を行うための取組を実行



Ⅲ リードタイムを確保するための手法

(1) 飼料物流のリードタイム確保における流通プロセスごとの現状と課題



出典：(株) 工業市場研究所「令和2年度飼料業界におけるリードタイムの確保に係る調査・分析委託事業報告書」

(2) 飼料物流のリードタイム確保における課題と解決の方向性



(3)リードタイムを確保するための手法

1 地場の飼料輸送の現状把握及び共有

- 飼料輸送の現状・課題を飼料メーカー、販売店、生産者などに理解してもらい、安定した飼料輸送を行っていくためにどのような取組みが必要なのか、関係者が集まる協議の場を設定する等により共有し、実行していく
- 単に、「危機的な状況」と訴求するのではなく、“地域毎”に、危機的な状況を説明するための説得力のあるデータを示す（物流費削減、値上げをしなくても済むなど、生産者に対するメリットを提示するという視点を重視する）

2 直前発注・急な変更の是正

- 発注期限を厳守することに対する意識を高める。文書や飼料メーカーなどの営業担当者による説明を繰り返し訴求する
- 発注期限を厳格に運用する（期限後の発注の拒否、直前発注料金の値上げ、生産者自ら引き取りに来てもらうなど）
※生産者のみならず、飼料メーカーも運送業者の状況を理解した上で注文を受付けるか拒否するかを判断する必要がある
- 運送業者（企業単体）から要望するのではなく、業界全体の課題であることを訴求する（国や業界団体から発信する）
- 発注を生産者に任せない（信用しない）アプローチを検討する
⇒電話確認、タンク在庫量の正確な把握・センサー等、運送業者が在庫確認を引き受けるなど、生産者の直前発注が起こることを前提として生産者に依存しない受発注方法を検討する。
※生産者に依存しない受発注方法を導入する場合、飼養頭数の増減等生産者における突発的な飼料の必要量の変動要因について、生産者から漏れなく情報を得ることのできる体制を構築しておくことが必要

3 受発注時の人的ミス削減

- 受発注システムの利用を拡大する
- 受発注情報をダブルチェックする仕組みを構築する
⇒生産者に対して、配送前日の発注量を電話で確認
⇒センサーを活用し、タンクの在庫量を確認（運送業者がタンクに入りきらない飼料を配送することを未然に防ぐ）

Ⅲ リードタイムを確保するための手法

4 小ロット配送の削減・効率化

●小ロットの注文を少なくする

⇒ 生産者のタンク容量を拡大してもらうなど、積載率が高いロット単位の発注を促進する

※タンク所有権はメーカー⇒生産者など複雑・曖昧な場合もある。投資負担などタンク容量拡大の課題あり

⇒ 小ロットの場合、生産者に倉庫やSPに紙袋の引取りに行ってもらおう

●運送業者の配送スケジュール効率化を前提とした、地域物流体制の構築

⇒ 共同配送（複数の運送業者が協調）、ミルクラン型物流など（飼料を引き取る側が運送会社を手配する配送。ここでは、各生産者が手配するケースではなく、ある程度注文がまとまる先（JAなど）が運送会社を手配し、複数の飼料メーカーからの集荷、生産者への配送の効率化を図るイメージ。現状、販売店を介した取引であっても、運送会社の手配は飼料メーカー、生産者、販売店など、様々なケースがあるエリアもあり、その場合に効率化を図る取組）。

5 工場での待ち時間削減

●飼料メーカーの「工場での待ち時間削減」に向けた意識を高める

⇒ 飼料メーカーに対して、取組を行うための動機付けを行う必要性を訴求（「待機時間料」を適正に支払っているか？）

⇒ 現状の待ち時間の状況を正確に把握する、他業界などの取組事例、対策を放置した悪影響などを訴求

（自社工場が特別に悪い・課題ではないなどという認識を改める）

●荷降り時間の指定、事前予約など、トラック予約システムの構築

●オーダー締め切り時間の前倒し（車両手配の標準化が可能となり、車両の積み込み時刻も分散）

●計量器、荷積場の増設など、積込に関する設備・環境改善

6 附帯作業の削減

●附帯作業が“有料”であることの認識を高める

⇒契約書に、附帯作業の項目を明記することを呼びかける（国や業界団体などから訴求）

●タンク下からでも蓋の開閉が行える装置を導入の促進 ⇒ 梯子の上り下り回数を削減させることができる

●タイヤ回りを自動で消毒することができる噴霧器を導入促進 ⇒ 都度降車して消毒作業を行う負担を軽減

リードタイムを確保するための手法を推進するに当たっての視点

地域毎に、飼料メーカー、販売店、生産者、運送業者それぞれのコミュニケーションを深め、課題を共有する場、手段を設定し、以下の視点の認知・理解を促進し、危機感を共有することが根本的に重要な視点であると考えられる。

- ① **地域毎に運送業者が逼迫している状況・将来に対する懸念を理解してもらうこと**
- ② **リードタイム確保にそれぞれの立場から協力できることは何かを理解・検討してもらうこと**
- ③ **リードタイム確保に対して協力することで、具体的にどのようなメリットがあるのかを示すこと**

※ 可能な限り数値データを示すなど、説得力のある説明を行う

2. リードタイムの確保に向けた取組の飼料業界への周知の方向性について（案）

リードタイムの確保に向けた取組の飼料業界への周知の方向性（案）

- 業界全体の課題であることを強調するため、行政、飼料関係団体、生産者団体等の連名で作成すべきか。
- 飼料関係団体及び生産者団体（検討会に参加していない生産者団体を含む。）の総会等関係者が集まる場で、農林水産省から周知資料を配布し、説明する。
- 各飼料関係団体及び生産者団体は、その会員、支所等へ配布及び周知を実施。

3月

- 第4回検討会の実施（周知資料等に関する検討委員との意見交換）

4月

- 周知資料の修正、内容の調整（メッセージ内容、レイアウト、発行者等について）
- 飼料関係団体及び生産者団体との周知に係る調整（総会等の関係者が集まる場における説明の検討、会員、支所等への展開方法の検討）

5月以降

- 各飼料関係団体及び生産者団体の総会等で周知資料等を用いて説明
- 各飼料関係団体及び生産者団体から会員、支所等への配布及び周知
- 農林水産省より飼料運送業者に対し周知